

心のくせをとり除く

(013)

時間に対するこだわり

あなたにとっては、現在という今の存在しか実在しておりません。過去はすでに過ぎ去っておりまし未来は未だにきておりません。真実はただ現在から現在へとそれが永遠に続いていくのです。

にもかかわらず、もしあなたが過去の何らかの重荷を、今も引きづって歩いているとすれば、それはあなたにとって負担になることはあっても何の得にもなりません。同様に、あなたはまだきてもいない未来における重圧のようなものを、背負って歩いてはいないでしょうか。

それにより余計なエネルギーを使い、生命力を失っているとすればまことに勿体ない話といわざるを得ません。過去の重荷を引きずるとするのは、理由のいかに関係なく、あなたが他人に対して「うらみ」「ねたみ」「いかり」あるいは「罪の意識」などというような意識を、心の奥にかかえているのではないだろうかということです。

未来における重圧というのは、あなたが例えば「不安感」とか「あせり」などという意識を、心の奥にかかえているのではないだろうかということです。

このような過去や未来に関するつまらぬ感情にとらわれます

と、人間はその生命エネルギーをいちじるしくそこなうことを強く認識してほしいのです。それが原因の一つとなって、病気やノイローゼを起こしたり、事故や災難を誘発するばかりでなく、不運な生涯を招いていることが少なくありません。ですからもし過去の重荷を引きずっていると感じる方は、それらをきれいにさっぱりと捨て去って下さい。未来の重圧も昔から“案ずるより産むがやすし”といわれるように、それは“とりこし苦労”にすぎません。

人間はこのような心のくせを大なり小なり持つておりますけれども、ちょっとした心のコントロールによって、それを少なくとも軽減することができはります。それだけで身も心も軽くなり、生命力が目に見えて向上するでしょう。

空間に対するこだわり

あなたは、あなた自身も含めたこの世界を認識するに当たって、相対的見方にとらわれてはいないでしょうか。宇宙の真理を認識しようとする場合、一切の物事を相対的分析的にとらえなければいけないことは、科学常識から見て当然でありまた必要なことです。

しかし、そういった相対的見方にばかりこだわると、強くなりますと、その相対の一方をいつのまにか絶対視するようなおかしな結果となり、それが悩みの種となってしまうことが少なくないのです。

例えば善とか悪とか、美と醜などという観念は、本来人間の心

は勝手に造った相対的観念に違いありません。善とか美は絶対的存在ではありません。人間世界の常識として悪や醜より善や美のほうを尊び、あるいはそれらを求める人達が多いという事実が悪いというわけではありません。

けれども善や美を理想化してそれらにこだわるくせが生じますと、いつの間にかそれらを絶対視する如き矛盾におちいることになりかねません。場合によっては本来相対的観念であつたはずの善や美が絶対的存在であり、それが神であるなどという理屈さえ造り出してしまいます。

また、生半可な親切や正義感といった感情も絶対視すれば、苦しみのもとになりかねません。ひいてはそれが戦争というような大悲劇の原因となつたりするのです。増補改訂中の今日からみても、それが現実の状態になっていることがわかります。同僚の給料が上がつたと知って相対的被害感にとりつかれ、それが原因で一生を棒にふつた人もあるのです。

自我に対するこだわり

あなたは、自我といわれるあなたの表面上の意識の一部を、自分自身のすべてであるかの如く錯覚しておりませんか。そのような自我意識は、いわゆる「エゴ」といわれるものにすぎないのです。人間はそんなエゴを真の自分と錯覚して、いろいろな妄想を起こし、本来あるべからざる自我の世界を造り、自らそれに縛られて諸々の苦しみを次々と呼び込んでいることが多いの

です。

本当のあなた自身というのは、あなたの意識のほとんど大部分を占めている潜在意識のことなのです。もしあなたが、あなた自身の潜在意識の一部でも認識することができるようになるならば、今までのエゴはその苦しみと共に霧のように消散するでしょう。

あなたの潜在意識は広く深く、それはあなたの生命そのものであることが何となくわかるでしょう。

しかし、あなたが真のあなたとはとてもいえない、つまらぬエゴにとらわれますと、感情と理性が対立葛藤し、いわゆる本音と建て前を使いわけするような、にせの人格を造り出し、それが苦しみや悩みや病気を起こすようになりかねません。宇宙の真理から見ると、人間が使い分けている主観と客観といった意識もエゴの造るところの産物という面が強いのです。

主観が単に自己中心の見方であつたり、客観が自己を別の所にすえた見方であつたり、とにかくそれらがエゴの産物になりやすいようです。

このような結果として、人間はとかくにせの人格を造り上げ、人間にとって最も大切な本来の自己である個性をころしてしまふのです。

人間にとって最も大切である自己実現は、個性の発揮なしには不可能となるのです。要するに人間は、その主として潜在意識が発している声なき声に対して、正直にすなおになることが大切な

自己実現の第一歩であることを認識すればよいのです。

早くエゴを捨て、自らの心身は自らがコントロールして、眞の自己を知るのが至福に達する唯一の方法であるのです。世間様がどうだこうだなどということは、必ずしも大切なことではありません。

その結果、諸々の苦厄が自然と去り、思いがけぬ知恵や力が発現してくるのが自覚できるようになるでしょう。

この本でお話している「オーラをみたり、オーラを清く活発にする」ことなどは、その結果的産物の一部にすぎないことが解っていただけでももういうことは何もありません。どうかみなさん各々が、これらの人間のおち入りやすい三種類の「くせ」を、なんとか軽減されるよう工夫研究されることを希望しております。

これら三種類のくせは、人間の長い時間における習慣から発生しているところがほとんどですから、決して簡単に除けるものではないと申しませんが、心のコントロール次第で必ず消滅するものであり、またそれが人間にとって最重要課題であると認識されるよう望む次第です。

まず自らを知ることが何よりも大切な基本であり、かつすべてなのです。